



Hola! (オラ!こんにちは)

オラが町

オリパラ通信 Vol.20

共生社会 ホストタウンの取組

あけましておめでとうございます。

加美町は、東京2020パラリンピック大会におけるチリとの交流を通じて、人にやさしいまちづくりや、心のバリアフリーを目指し、共生社会ホストタウン事業に取り組んでいます。

障害は「ない」とあるの？
バリアフリー「気づく」

共生社会ホストタウン事業の一環として、中新田小学校5年生65人が学校周辺を歩きながら、バリアフリーまち歩き点検を行いました。

児童たちは、10班に分かれて車いすに乗りながら、JA加美よつばや役場などの公共施設を歩き、施設のトイレや自動ドアなどの整備状況を点検。

また、道路や歩道の段差や道幅、点字ブロックなども調べました。

小さな段差も車いすではとても大変▼



▲歩道の幅もしっかりチェック

バリアフリーマップ
を作成

点検を終え児童たちは、様々な意見を出し合い、バリアフリー化されたところ、されていないところを書き込んだバリアフリーマップを作成。完成したマップを班ごとに発表しました。



▲たくさんの意見が発表されました

困っている人に「気づき、声をかけ、行動する」

児童からは「砂利道では、車いすを押しあげたい」「障がい者や高齢者、困っている人に、「お手伝いしましょうか?」と声をかけたい」など、思いやりの気持ちが芽生えたようです。

詳しい様子は、加美町ホームページ(右上のQRコード)でご覧ください。